

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 29 年度

事業所番号	2775600675		
法人名	有限会社 五和会		
事業所名	グループホーム平和苑		
所在地	大阪府泉南市樽井1-6-1		
自己評価作成日	平成 29年 11月 21日	評価結果市町村受理日	平成 30年 1月 18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kajikokensaku.nhw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=2775600675-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kajikokensaku.nhw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=2775600675-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 29年 12月 19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・看取りを実施している。医療連携が充実している為、早期発見・受診等早く対応出来ている。24時間訪問看護看護師と主治医との連携がとれている。</li> <li>・理念に基づき、ひとり一人の職員が尊厳を守り自己決定が出来る支援を意識高く取り組んでいる。</li> <li>・様々な行事に多くのご家族の参加、協力を得られている。(遠足・運動会・家族会)</li> <li>・亡くなられた利用者家族のボランティア協力で地域交流の為の布草履教室を継続して開催している。地域の方・ご家族・元ご家族が自由に集える平和苑カフェを開催している。</li> <li>・全職員がケアプランを意識できるようケアチェック表にて日々プランの実践ができるようにしている。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>地域に貢献している医療法人が母体となり、約15年前に開設したグループホームです。管理者は母体法人をはじめ、職員、地域の熱心なサポートで、グループホームの目指すべき「利用者の尊厳を守り、利用者が自己決定出来る、利用者本位の個別ケア」を実現しつつあります。職員の目指す目標は高く、チームワークは抜群で職員退職者ゼロを実現しています。泉南市で唯一看取りを行っているホーム(訪問調査日時点)は、平成29年に8人の看取りを行っています。こうした職員の取り組みに対し、家族は高い評価を与えています。利用者は医療的な不安もなく、職員の作る美味しい食事を楽しみ、ゆったりとした表情で過ごしています。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	<p><b>○理念の共有と実践</b>                      地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>職員全員で理念を再構築し直し、介護する上での基本姿勢にするようにしている。毎月のカンファレンスにて、理念の意識づけをし、フィードバック面接時に理念を意識した行動が出来ているかなどを管理者と職員が話している。</p>	<p>前回の外部評価受審以降、職員同士で話し合い、理念に「尊厳」という言葉を組み込み、「私たちは入居者様の尊厳を守り、ありのまま今を輝く暮らしを支援します！愛と笑顔あふれる心の家族を目指します！」を新しい理念とし、明示しています。職員は理念の実践に向け具体的な年間目標・月間目標を決め、実践しています。管理者は定例のミニカンファレンスや毎日の業務等を通じて職員と方針を共有し、介護サービスに反映させ、利用者が安心して楽しく生活を続けられるよう、家族、地域住民と共に支えています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣組参加。地域住民参加の布草履教室を月2回開催。地域住民が自由に集える平和苑カフェを月1回開催。地域住民参加の花火大会実施。近所のスーパーへ毎日買い物に行っている。日常的に散歩や、歩行訓練で、地域に出ている。	地域との交流の機会は多く、積極的に取り組んでいます。利用者は日常的に散歩や近くのスーパーへ食材購入等に出かけています。月2回布草履教室を開催し、利用者は地域住民と共に手芸や会話を楽しみます。月1回開く「平和苑カフェ」は近所に開催日のビラを配布して、利用者は地域住民と一緒にお菓子を作って楽しいひと時を過ごしています。近くの保育園児の可愛い訪問もあります。地域に向けての介護相談には随時応じています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	泉南市地域密着型事業所交流会を2ヶ月に一度開催。各事業所の実践例等を話し合っている。月1回の平和苑カフェでは地域の方々やグループホーム、デイサービスのご家族様方が、認知症の人の理解や予防などを話題にしており、その内容は「カフェだより」として近所へも配布している。管理者と計画作成担当者がキャラバンメイトとして、地域へ認知症啓発活動をしている。認知症相談会へも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p><b>○運営推進会議を活かした取り組み</b>            運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>毎回、行事の内容や入居者の身体状況等の近況報告をしている。また、困難事例等も報告し、頂いたご意見を参考にしている。外部評価については報告している。</p>	<p>運営推進会議は民生委員、老人会会長、泉南市介護者家族の会会長や会員、地域包括支援センター職員、市の担当職員、利用者及び家族代表の参加を得て2か月に1回開催しています。会議開催日は全家族に通知し、会議録も全家族に配付しています。会議には家族の出席が多く、他の出席者からも意見や提案が活発に出され話し合っています。会議では入居者の状況や行事の内容等を報告しています。会議の中で夜間想定避難訓練について、訓練時に懐中電灯ではなく両手が空けられるよう首からかける照明の方が介護をしやすいのではないかと提案があり、さっそく導入実施しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p><b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議に毎回 参加して頂き、ご意見を伺っている。毎月発行している平和苑だよりで自施設の様子を理解して頂いている。</p>	<p>管理者は、市の担当職員と報告や相談、情報交換に努め、協力関係を築いています。管理者は市に協力し「泉南市認知症ケア研究会」の立ち上げの中心的役割を担っています。研究会では管理者の取得すべき「泉南市ライフサポートコーディネーター」育成事業の委託を受けています。また、2か月毎に開催している泉南市地域密着型事業所交流会の世話役を引き受けるとともに、キャラバンメイトとして認知症啓発活動を実践しています。</p>	
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束についての研修を行い、職員間で認識を共有し、職員のケアの振り返り(アンケート実施)の機会を作っている。 玄関は施錠しているが、要望があれば、見守り、付添いのもと、開放している。</p>	<p>職員は、ホームの年間の研修計画に従い、身体拘束廃止や虐待防止について学び、意識を高めて身体拘束のないケアに取り組んでいます。日中は玄関とエレベーターを開錠しています。フロアのドアについては、現状では外出願望のある利用者の安全を考慮し、開錠が実現できていません。ただ、外出願望のある利用者については、見守りと付き添いで対応しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待についての研修を行い、職員間で話し合い、虐待についての認識を高めている。共用型デイサービスのご利用者家族様で気になる言動があった場合は職員間で情報共有し、対応を検討し、さらに、担当ケアマネジャーにも連絡、相談している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加、又は事業所内研修にて話し合っていく予定。(今年度は未実施)全員で周知できるように資料を閲覧している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明で十分に説明、理解して頂いている。改訂の際には、重要事項変更同意書を作成し、理解・納得を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>半年毎に担当者会議を開き、ご家族・ご本人の思いや意見を伺っている。また、面会時にも伺うよう心掛けている。利用者の送迎時に、ご家族が思いや意見を言いやすいよう声掛けを心掛けている。苦情等あれば運営推進会議で報告。その内容は運営推進議事録で全家族に報告している。</p>	<p>家族の面会時にはその都度声をかけて利用者の状況を報告し、要望や意見を聞いています。意見箱は設置していますが、家族は職員に直接話せる関係にあります。介護計画作成時の担当者会議には家族の参加を得て、意見や要望を聞いています。家族会は年1回開催され、参加する家族も多く、ホームとの意見交換や家族交流の場となっています。家族には利用者の状況を月1回「平和苑だより」と共に個別外出の様子や日頃の写真を添えて報告し、喜ばれています。看取り後に家族から看取りについての感想文と共にホームや職員への思いと感謝の言葉が寄せられ、職員は励まされ、家族の思いを今後のケアに反映したいと考えています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p><b>○運営に関する職員意見の反映</b>                      代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月ミニカンファレンスという会議を行い、職員からの意見を収集し、検討、話し合い、ケアの向上、業務の改善に努めている。気づき発見メモを活用しどんな意見もいえる雰囲気環境づくりをしている。</p>	<p>職員は、定例のミニカンファレンスや気づきメモ、日常の業務の中で業務の改善事項や課題について話し合い、提案し実行しています。職員は理念にのっとり、利用者の尊厳と自己決定を尊重し、利用者本位のケアを徹底しています。退職者も出ずチームワークが良い職員の思いと熱意に対して、家族は高い評価を与え、熱心に協力をしています。管理者は年2回職員と面談し、風通しの良い職場作りに努めています。</p>	
12		<p><b>○就業環境の整備</b>                      代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>運営法人の人事考課制度が始まり、年2回個人面談を行い、半期ごとの目標・それを達成するには？と課題を明確にし、アドバイスをしている。悩み等も聞いている。</p>		
13		<p><b>○職員を育てる取り組み</b>                      代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修への積極的な参加を促し、伝達講習も行っている。どのような研修を望むかアンケートを取り、それぞれが望む研修を企画し、不安なくケアに取り組めるよう努めている。</p>		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	泉南市地域密着型事業所交流会で、情報交換や連携を図り、いつでも職員の交換研修を受け入れ出来るようになっている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の思いを傾聴し、不安なら気軽に見学してもらう事や、体験利用が可能。ご本人との関係性を築くよう努め、安定的に利用に移行できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	気軽に見学に来てもらい、家族の不安な思いを傾聴している。体験利用をし、安定的に利用に移行できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時のご本人、ご家族等の事情や要望を元に、何が必要か見極め、事業所としてできる限りの対応に努めている。必要に応じて他のサービスの利用を薦めたりもしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と喜怒哀楽を共にする事の重要性を理解し、利用者と共にできるような日頃から努めている。日常の食事作りや洗濯干しなど、家事、作業の場面では能力を発揮して頂き、共に支え合う関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来苑時の近況報告、送迎時の声かけ等で、ご家族に把握して頂けるようにしている。担当者会議では、出来るだけ家族に参加して頂き家族の思いを聞き出すようにしている。行事への、家族の参加を呼びかけ楽しみを共感して頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	慣れ親しんだ近所の美容院や買い物など継続して通える支援をしている。近所のご友人の面会を受け入れ、電話も好きな時にかけられるようにしている。	職員は、利用者の友人がホームに來たり、利用者が馴染みの美容室やスーパーに行くことを支援したりして、利用者の思いを実現し、利用者が大切に思う馴染みの人や場所との関係が途切れないよう努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共に支えあい暮らす大切さを職員は十分に理解している。利用者の個性や能力を把握し、利用者同士の協働の場面(調理・洗濯等)を多く支援し、利用者同士の支え合う微笑ましい場面は共に喜び認め支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が亡くなられた後も、ご家族様へボランティア協力や、気軽に立ち寄って頂けるよう平和苑カフェへの参加、家族会への参加を呼びかけ、相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画見直し時に「その人の立場になって」思いを馳せ、自分から思いを言えない方へも意向の把握に全員で取り組み検討している。	当初のアセスメントやその後の暮らしのなかで、利用者と家族から聞き取りたり、利用者の表情やしぐさから汲み取った希望や思いを「プロフィール&なんでも情報シート」に記録し、6か月ごとに見直しをして、職員間で情報の共有化をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全職員が半年毎に「何でも情報」として、お一人ずつの生活歴や好きな物、嫌いな物などの情報を集め記録している。面会時や送迎時に、ご家族との馴染みの関係作りに努め情報を提供して頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別援助計画書で、お一人ずつの一日の過ごし方を把握し、心身状況に合わせて随時見直ししている。さらに「何でも情報」で、出来ること出来ないこと等を把握。新たな発見があれば、追加記入し全職員が把握できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ご本人や家族には日頃の関わりの中、又送迎時に、思いや意見を聞き反映させるようにしている。「何でも情報」の見直しにより全職員でアセスメントし、半年ごとの担当者会議ではご本人・ご家族と共に意見交換している。毎月のミニカンファレンスでは困難事例等を話し合い、取り組みの継続後、介護計画に反映している。</p>	<p>介護計画は定期的には6か月毎に、また状態の変化がある時はその都度、見直しを行っています。職員は個別介護計画の支援内容をケアチェック表で毎日モニタリングしています。計画作成担当者は毎月、個別介護計画のまとめのモニタリングをしています。6か月毎に「なんでも情報シート」を見直し、カンファレンス、家族と利用者も参加するサービス担当者会議を経て、介護計画の見直しにつなげています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ケアチェック表にて毎日のプランの実施状況を把握でき、介護計画見直しに生かしている。個別記録にも状況を記録し、毎日伝達ノート等も活用し情報を共有している。気づき、発見メモを活用し、実践に活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>通院支援・リハビリ通院支援・入退去時の荷物運搬支援や、美容院、買い物支援等、ご本人やご家族の情報に応じて柔軟に対応している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの美容院・スーパーの利用。泉南市介護者家族の会の催しへの参加。消防署との合同避難訓練。困難事例の地域包括支援センターへの相談等で地域資源と協働している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の連携医療機関や今までのかかりつけ医・希望の病院を受診して頂いている。基本は家族同行の受診だが、必要に応じ受診に付き添いもしている。また連携医療機関からの訪問診察、歯科医の訪問診察に来てもらっている方もいる。	利用者・家族の希望によって、協力医療機関の訪問診療を受ける人、あるいは希望の病院を受診する人がいます。医療連携している看護師が訪問看護で健康管理を行っています。協力医療機関と連携し、夜間や緊急時の対応についても万全な体制を整備しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携医療機関の訪問看護ステーションと契約し、看護師、主治医と24時間連絡を取れる状況にある。毎朝看護師と連絡を取り、利用者の体調報告をし、受診が必要と判断されればすぐに対応している。看取りでは医師の説明に担当看護師も同席し、安心して納得した最期を迎えられるよう、随時意向確認をし、家族と共に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p><b>○入退院時の医療機関との協働</b>                      利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院の際病院関係者に情報提供し、ケアについて話し合っている。また担当医には短期間の治療で早期退院できるように伝え、家族・病院関係者との話し合いの場を設けている。</p>		
33	12	<p><b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b>                      重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ご本人やご家族の意向を踏まえ、連携医療機関の医師・看護師と職員が連携をとり、安心して納得した最期を迎えられるよう、随時意思を確認しながら取り組んでいる。定期的な、看取りカンファレンスを行い、問題点や不安なことに対し話し合い、意向に沿ったケア、ケアの統一にチームで取り組んでいる。ご家族にも事業所の取り組みを公開し、了承を得ている。</p>	<p>ホームは看取り実施の方針を持ち、指針も作って契約時に利用者の意向を確認しています。泉南市で唯一の看取り実績のあるホーム(訪問調査日時点)で、利用者それぞれの看取りマニュアルを作成し、看取りカンファレンスを実施しながら、平成29年度は8人の看取りを行っています。今後も利用者が重度化した場合、できるだけホームでの生活が続けられるよう、状況の変化とともに、利用者や家族、医師、看護師、職員間で話し合いを行い、方針を共有しながら対応していく予定です。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の身体状態の急変や事故発生時にも慌てず適切な行動が取れるよう定期的に研修を行い、応急手当やAEDの使い方についても訓練も実施している。連携医療機関への連絡、救急車の手配などの模擬訓練も実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し利用者と共に避難訓練・夜間火災を想定した夜勤者対象の避難訓練も実施している。年2回設備点検を実施する際に避難訓練も実施し、そのうち1回は消防署との合同避難訓練。災害時に備え備蓄、ポータブルトイレも準備、地震に備えた環境整備もしている。毎月テーマを決め研修会実施している。昨年度は炊き出し訓練を実施し、ご近所の方へも呼びかけ、非常食などの試食。炊き出しのカレーなど一緒に苑庭で召し上がっていただいた。	年2回の火災・災害避難訓練を実施し、その内1回は消防署の指導・承認のもと合同で実施しています。近隣で火災が発生した時、ホーム建物の1階ギャラリーを近隣住民の災害避難待機場所として提供したことがあります。災害時の飲料水と食料品の備蓄について食料品は準備していますが、飲料水については不十分となっています。	飲料水の備蓄については、利用者と職員分の水一人3リットル×3日分の備蓄が求められます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩である事に敬意を払い、丁寧な言葉かけを心掛けプライドを損ねないよう全職員が気をつけている。尊厳について研修会を行い、「自己決定」がしやすい声掛けをするよう、全職員で取り組んだ。必ず一人一人目を合わせ職員を認識してもらい、「〇〇しませんか？」という、自己決定しやすい声かけを意識するようにしている。	職員の言葉かけや態度は明るく、利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、誇りやプライバシー、尊厳を損ねることがなく利用者が自己決定できるよう配慮をして、丁寧でやさしい雰囲気をもって接しています。職員は年間計画に従い、人権や尊厳についての研修を受け、意識の向上に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お誕生日に食べたい献立などの好みを伺い、希望を聞き出す。その日に着たい洋服を選択して頂く、食後に飲みたい物をお聞きする等、自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調が悪い時、眠い時間帯、お好きなテレビ番組、音楽鑑賞、計算問題、絵を描く、塗り絵、散歩、運動、編み物等その方に合わせた、その方の能力を發揮できる過ごし方をさせていただいている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毛染めを希望される方は馴染みの美容院に行ってください。女性は化粧の支援を、男性は、髭剃り支援をしている。毎朝整容の出来ない方は介助させて頂き、洋服もできる限り自己決定できるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑と一緒に収穫した野菜や旬の食材を使用し、調理・盛り付け・片付けを職員と一緒にして頂いている。献立は職員が立てるが、誕生日は食べたい物を伺っている。朝食はパンとご飯を選択して頂き、夕食時は希望者にはアルコールを提供している。食材の買い出しも一緒に行っていただいている。	利用者は毎日職員と共に近くのスーパーへ食材の買い物に出かけます。食事は3食とも各フロアのキッチンで作ります。利用者も下準備や下膳、盛り付け他、調理を職員と一緒にいきます。毎日のメニューは職員が作りますが、日ごろから利用者の好みを聞きながらメニューに反映させています。お誕生日には本人の食べたいものが出されて喜ばれています。行事(花見、紅葉狩り)には家族と共にホームでお弁当を作って皆で楽しいピクニックに出かけます。年6回の個別外食も利用者の楽しみの1つです。重度の利用者には日頃の様子から職員が思い図ってケーキや好みのもを用意します。家族にも利用者の好みを聞いています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をして いる	個々の水分量を把握している。毎月体 重測定を実施し、医師の指示がある方 には食事量・水分量の調節やトロミ剤 を使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 ご自分の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。ご自 分で出来る方は見守りや声掛けのみ にし、出来るだけご自分で行って頂き、 援助が必要な方には、スポンジ・ガー ゼ・口腔ジェル等にて支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を 活かして、トイレでの排泄や排泄の自立 にむけた支援を行っている	利用者のサインを見逃さないようにし、 身体機能に応じて支援している。日中 はトイレでの排泄を支援しオムツ類も 身体機能に応じて使用している。排泄 チェック表を使用し、尿意・便意のない 方は時間を見計らって誘導しトイレで 排泄できるよう支援している。ご家族と も連携し、自宅での排泄状況を、参考 に、トイレ誘導を行っている。	排泄記録をとり、利用者一人ひとりの 排泄パターンや習慣を把握していま す。利用者のしぐさや表情から状況を 判断し、声かけや誘導、見守りにより、 全員が自室のトイレで排泄ができてい ます。8人の利用者は自立していま す。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の食事で出来るだけ水分や食物 繊維を摂取出来るよう支援している。 便秘気味な方は排便周期を把握し、下 剤の量を調節しつつ排便コントロール を行っている。体操や散歩をし、サイク リングマシンを用いて下肢運動も実 施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本週 3 回入浴していただくが、体調と本人の希望に合わせて 2 回・1 回と清拭の方も、又、毎日入浴の方もいる。仲の良い方同士の入浴も実施。基本は個別誘導にしている。入浴を拒否される方には、声掛け等の工夫をしている。入浴時間は午後 2 時～5 時までとしている。	利用者は平均して週3回、一般浴か機械浴槽を使って入浴を楽しんでいます。自立している利用者は希望すればホームの個浴槽で毎日でも入浴できます。ゆず風呂などの季節の行事風呂も楽しめています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠時や体調が悪そうな時は日中帯も臥床して頂くよう配慮している。なかなか寝付けない方や中途覚醒された方には温かい飲み物を提供し、じっくり傾聴する等、安心して入眠できるよう支援している。また、室温も小まめに調節するようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更や臨時薬の処方があった時は受診記録や伝達ノートにて全職員で情報を共有し、状態等の変化があればすぐに医師に報告している。またいつでも調べられるよう薬情ファイルをヘルパー室に保管している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編み物・裁縫・調理・新聞・雑誌・歌・計算・塗り絵・買い物・お散歩等、能力・好みに合わせた楽しみ毎を提供している。希望者にはお好きな種類のお酒を晩酌に提供をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	馴染みの美容院や、気候が良ければ散歩、歩行訓練を兼ねた散歩にも出かけている。花見や遠足、紅葉見学、を企画し、ご家族にも参加して頂いている。日中一人で散歩をされている方もいらっしゃる。	天気の良い日は職員と一緒に近くのスーパーまで買い物や散歩に出かけています。一人でホーム近くの好きなコースを散歩する利用者もいます。春と秋の行事には、家族と一緒にホームでお弁当を作って出かけています。利用者の中で自宅に帰りたいとの希望があり、家族と相談の上、個別に職員と一緒に自宅を訪問して喜ばれたこともあります。個別外出として外食等に出かけていますが、今後さらに個別外出の内容を充実させていきたいと職員間で検討しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時は一緒に支払い等のやりとりをし、個人のお金である事を意識して頂くようにしている。個人の財布をお持ちの方は普段は金庫で預かり、外出の際に渡すようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望があれば年賀状等を書いて頂く。電話は専用の電話を設置し、希望時にはいつでも掛けて頂けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内でも季節を感じていただけるよう壁面担当者が利用者と共に作成した作品を壁に飾り付けている。利用者の方が編んだ座布団カバーを使用している。台所ではいつも調理の音や匂いが楽しめている。トイレは各居室にあり、ゆっくり安心して排泄して頂ける。空調管理には常に気を配っている。	ホームの台所設備はリビング兼食堂と同じ室内の壁際に配置され、利用者は調理中の食べ物を見たり、匂いを感じることができ、調理中の職員は背中では利用者の会話や気配を感じることができています。壁には利用者と職員が一緒に作った季節の風物の手芸作品や皆で歌う曲の歌詞が貼られています。書籍、カラオケ機器、レクリエーション道具、サイクリングマシンも置かれています。簡単に仕切られた落ち着ける居場所のソファースペースもあり、少し手狭ですが、温かい家庭的な雰囲気のある共有空間となっています。食後、利用者がノリノリで歌うカラオケの音が響いていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳コーナーや、ソファでゆったりくつろぎ、お話しして頂ける空間がある。しかし、利用者の皆さんは、食堂で過ごす方が落ちつかれるようだ。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅での馴染みの家具や椅子、家族の写真、神棚、化粧品セット、お人形、趣味の品等を持ちこんで頂いている。	居室の入り口には自身の顔写真を入れた手芸作品の写真入れが飾られています。居室には、利用者が持ち込んだ整理ダンスや椅子、神棚、人形やぬいぐるみ、家族の写真、テレビ等が置かれています。また、壁に色紙で自作の俳句を飾ったり、好きな歌手の写真を壁いっぱい貼り付けている個性的な居室もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行不安定な方の居室には食堂の椅子や低い棚等を並べ手すり代わりにし、見当識障害で混乱のひどい方には居室ドアに今日の日付やりハビリ・入浴の予定を記入出来るボードを置き、混乱の予防に努めている。歩行意欲向上のため廊下の端に歩行練習チェック表を張り出し自己にて印付けをして頂いている。		